

2021.12.19. 神が注意を引かれる時
ヘブル人への手紙 12 章 25 節～29 節
JD ファラグ牧師

おはようございます、第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は、毎週行っている「聖書預言・アップデート」です。第二礼拝は説教です。これは、聖書の一節一節を学ぶものです。今日は、主の御旨に添えば、第 12 章を終えます。聖書箇所は、25 節から 29 節です。ここにいらっしゃる方で、可能であれば、ご起立ください。無理な方は、座ったままで結構です。私が読むのについてきて下さい。25 節からです。ヘブル人への手紙の著者は聖霊によってこう書いています。

ヘブル 12

25 あなたがたは、語っておられる方を拒まないように気をつけなさい。地上において、警告を与える方を拒んだ彼らが処罰を免れなかったとすれば、まして、天から警告を与える方に私たちが背を向けるなら、なおのこと処罰を免れられません。

26 あのとときは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。「もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす。」

27 この「もう一度」ということばは、揺り動かされないものが残るために、揺り動かされるもの、すなわち造られたものが取り除かれることを示しています。

28 このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。

29 私たちの神は焼き尽くす火なのです。

一緒に祈りましょう。私たちの理解を神が祝福してくださるように。天の父よ、これは確かに力強い節です。そして、私たちが切実に必要としているもので、聖霊が、私たちに理解を与えてくださいますように。今日のあなたの御言葉の中で、あなたが私たちのために用意して下さっているものを逃したいと思っている人はいないでしょう。それが今日、私たちがここにいる理由です。私たちは、あなただけがお出来になるように、あなたが私たちの人生に語られるみことばを聞く必要があります。主よ、あなたはいつも忠実なお方です。どうか今、私たちの心を鎮めてください。あなたに集中して注意を払うことができるように、心を静かにする必要があるのです。主よ、感謝します。あなたのみことばに感謝します。今日の共にある時間に、私たちに為してくださることに、前もって感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございました。今日、お話ししたいのは、神が、私たちの注意を引くことが必要だと判断されるのは、どのような、または、どんな場合かということです。皆さんは私がいったい何を話すのか分からないと思います。ある人にとっては、少々理論的過ぎるかもしれません。しかし神が、私たちの注意を引く必要がある時があります。推論ですが、私たちは神に十分な注意を向けておらず、だからこそ、神は私たちの注意を引く必要があるのです。そして、私たちの注意を引くために、神は必要なことは何でもされるのです。ヘブル人への手紙の著者が書いているのはそういうことです。先週見た、律法と御霊を現わしているシナイ山とシオンの山の対比のように、著者は、律法は殺し、御霊はいのちを与えるという、この強烈な対比を描いているのです。そして今、著者はそのことを受けて、それを彼らに適用しているのです。そうすることで、今の私たちにも適用しているのです。これこそが、主が今日、この御言葉の中で私たちに与えてくださったものだと思います。これは主の御言葉の中にある、主からのこ

とばです。これは、神が私たちの注意を引かれることに関する言葉で、そうして、一旦私たちの注意を引くことで、私たちの人生に語りかけることがお出来るのです。以下は、神が、何をどのようにして私の注意を引くのかです。25 節から。いつも警告から始まります。ここでは、イスラエル人がシナイ山での神の警告を無視し、その結果、背を向け、逃れられなかったことを指しています。これは、彼らと同じように、今の私たちにも当てはまります。私たちは皆、神の警告に耳を傾けない性質があるということです。神が私たちに警告を発するとき、時には、それは明白でないことから始まることがあります。神は私たちに警告し、私たちはそれを聞きますが、その警告に心を留めません。そうすると、私たちはその結果を免れることはできません。そして、それが著者が言っていることで、地上で警告されたとき、その結果から逃れられないのなら、天から警告されたときに、どうして逃れることができるだろうか、ということです。これらの警告は、私たちの注意を引くために、神が私たちに送る天からの警告です。こんな感じになります。私たちは、最終的に悪い道へと進んでいるのですが、神は私たちを愛され、守りたいと思っておられるのです。そして、警告のサインを置くのです。あなたは、はっきり言って、破滅につながる道を旅しているのです。箴言にもあるように、

「人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。」(箴言 14:12)

神は、私たちをととも愛しておられます。そのため、私たちがスピードを落とし、立ち止まり、自分の道を考えるようにするために、警告のサインを出し、神はあらゆることをされるのです。そして、その警告はあらゆる方法で来ます。時には、キリストの兄弟姉妹が、私たちの進む方向について、神が心に留められている言葉を、語ってくれることもあります。その兄弟姉妹が私たちの人生に語りかけるのです。それは、私たちが耳を傾けるべき警告なのです。神が私たちに警告する一番の方法は、神の御言葉によってです。それがどういう事かということ、あなたが聖書を読んでいて、ある節を読んでいる時、今までに千回も読んだことがある節ですが、しかし、今回は、ページから飛び出してきて、あなたの顔を叩くのです。

「注意を払いなさい。警告！警告！警告！」そんな一節を読んでいるときって、ありますよね。[咳]失礼しました、私は大丈夫です。喘息ですので、優しくしてくださいね。しかし、私が見ていない間に、神がその箇所に、私の名前を入られたような感じです。そして、私に向かって話しかけてくるのです。皆さんもやったことがあるかも知れませんが、私はこれをします。心に突き刺さるので、気の弱い方にはお勧めできません。両刃の剣のように心に突き刺さります。しかし、私がよくやるのは、その箇所に自分の名前を入れることです。最良の例は、コリント人への手紙第一 13 章です。愛の章です。「愛は寛容であり、愛は親切です...」このリストは基本的にイエスを説明しています。愛とはそのお方だからです。神が愛を持っておられるのではなく、神が愛であるということです。コリント人は、自分たちが愛のある教会だと思っていたので、叱責が必要だったのです。そして、聖霊によって使徒パウロはこう言いました。「それが愛だと思うのか？ 愛とはそういうものではない。これが愛なんだ。」だからこそ、コリント人への手紙第一第 13 章があるのです。今までに、コリント人への手紙第一第 13 章に自分の名前を入れてみたことがありますか？ どこまでできますか？「J.D.は寛容です...」そこで止まります。私は諦めました。私はできませんでした。そんな人間ではないからです。「愛は...」自分の名前を入れると、「J.D.は...」ただ...うまくいかないんです。「J.D.の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。」

(箴言 14:12 参照)

あなたの名前を入れてもいいですが、自分を例にします。犠牲になります。だからといって、それで解放されるわけではありません。自分の名前を入れてみてください。そして、何が起こるか見てください。そ

これは、神があなたに危険を知らせる一番の方法です。神の御言葉があり、キリストの兄弟姉妹があり、神が私たちに警告するもう一つの方法は、それは状況の摂理的配置と関係しています。ある方向に向かって進んでいるときに突然、ドアがバタンと閉まってしまうことがありますよね？ つまり、聞いたことがあると思いますが、「神はあなたの歩みを導くが、あなたの歩みを止めることも、また神の導きである。」ということです。神は状況を調整してくださいます。神があなたの道を指示するとおりに、あなたは自分の人生のステップを演出します。そのような状況を利用して、神はあなたに警告するでしょう。「この先危険、この先危険。」ところで、なんというか.....何と言うか、それらは状況に応じて、お互いに協力し合って働きます。単独ではありません。つまり、自分の状況だけを基準にして、あなたの人生に対する神の意志や神の警告を判断してはいけないということです。それは神の御言葉と一致しなければなりません。もしあなたの人生の状況が、いのちの御言葉と一致しないなら、何だと思いませんか？それは神ではありません。神ではありません。すべては神の御言葉によって測られ、保証されるのです。さて、彼は警告から始めて、26節と27節へと続きます。警告がうまく機能しないと、「神は、私たちの世界を揺り動かされる」誰もがこのような事態を望んでいません。しかし、実際には、神には物事を揺り動かす必要があられるのです。なぜなら、それが私の注意を引くために必要なことだからです。特に私が信頼を置いている物事に関しては、これについてお聞きください。この表現を聞いたことがある人は多いでしょう。

「安易な方法で学ぶこともできるし、困難な方法で学ぶこともできる。」この言葉は、今の私にも通じるものがあります。この言葉は長年にわたって私の心に残っています。若い方たちは私が何を言っているのかわからないでしょうが、我慢してください。私と同じくらいの年齢の方は、フラムオイルのCMを覚えていますか？頼むよ、思い出してください。思い出させてあげます。それは、フラムオイルを売っていて、その人はそこに立って、こう言うんです。「今すぐ払うか、後から払うか」今、思い出しましたか？彼は何を言っているのでしょうか？あぁ、素晴らしい、天才です彼の言っていることは、「今お金を払ってこのオイルを買うか、オイルを買わずに、後でお金を払うか」ということです。「苦労して学ばよ」「このオイルを買うのですか？エンジンを買い換えるのですか？」そういえば、そうだった。あのCMは、核心をズバリと突いていて、なんだか憎らしいですね。今払ってもいいし、後で払ってもいい。易しい方法で学ぶこともできるし 難しい方法で学ぶこともできます。いいですか、私はむしろ、あなたの失敗から学びたいのです。代理で、不思議なことに。あなたの反応を見て、あなたもそのように学びたいと思っていることがわかりました。しかし、神の警告に耳を貸さなかったゆえに逃れられない結果が発生し、その災難を目の当たりにする人がどれだけいるのでしょうか。私たちはそれを見て、こう思うのです。「おお...、おお...!」「分かりました、主よ...!」そして、そこから学ぶのです。私たちはどうですか？ 苦労して学ばなければなりません。私にはそれを証明する傷跡があります。苦労して学ばなければなりません。それは、皆さんには何の関係もないことだと思いましたが、頑固さや頑迷さ、うなじがこわいと呼ばれるものです。そして、神はこう仰います。

「わたしはあなたに警告しようとした。兄弟姉妹を送った。しかし、あなたはそれを受け入れなかった。」

「わたしは警告のサインを出した。しかし、あなたはそれを聞き入れなかった。」

「わたしの言葉で、あなたに語りかけようとしたが、あなたは耳を傾けなかった。」

「今は、ちょっとした揺さぶりが必要なのでは。なぜならそれが、あなたが学ぶ唯一の方法だからだ。あなたの世界を揺り動かさねばならない。わたしは残酷ではない。それは、あなたを愛しているからであり、あなたがこのまま進み続けるのは見ていられないので、その方向へ進むのを止めるためには、揺さぶ

りをかけるしかないのだ。」そして、神が私の人生からあるべきでないものを揺り動かして取り除くことができる唯一の方法は、その揺り動かされたり、焼かれることを許すことなのです。こんな風に言っているのかな？「揺すって、焼く/Shaking and Baking。」ベーコンではありません。私はベーコンが大好きですが、ベーキング/焼くことです。「揺すって、焼く」神は、物事を熱し、揺さぶる必要があります。さて、ここから炎のような試練がやってくるのです。ここに、ゆるがすような揺さぶり、あるべきでないものを焼き尽くして取り除く炎のような試練がやってくるのです。それは大嫌いですが、しかし、神がやってくださった後、振り返ってみると、神にそのことを感謝しているのです。そのように世界を揺り動かし、私の世界の熱を上げるほど、私は神に愛されていたのです。それは、悲惨なことになっていたでしょう。神は私を守ってくださったのです。私を縛っていたものから解放してくださったのです。私たちは子どもの頃からダニエル書に親しんできました。子どもの頃に教会に通っていた人は、シャデラク、メシャク、アベデネゴが火の燃える炉の中にいるという話を必ず聞いていたはずですが、この話には、非常に多くの類型があります。シャデラク、メシャク、アベデネゴに象徴されるように、イスラエルが七年の患難を経験し、その中で救われることについての、典型的な預言的な箇所であることをお話ししました。

しかし、この記述には興味深い内容が記されていますので、皆さんに注目していただきたいと思います。ダニエル書3章21節から読みます。これは、6つの楽器が奏でる音楽を聴いたとき、60キュビト×6キュビトの大きさの像に頭を下げることを拒否した時のことです。これは獣（反キリスト）の象徴、666です。ダニエルは、もちろんそこにはいません。教会は引き上げられ、その時には存在していないことの描写です。そして、この三人のヘブル人がいますが、非常に興味深いことがあります。彼らはネブカドネツァルに言います。彼らは言いました、聞いてください。

「私たちはあなたの像にひれ伏して、あなたの像を拝むつもりはありません。」(ダニエル3:18)

「さあ、私たちを七倍の熱さの火の燃える炉に投げ込んでください。」エステルが言ったのとほぼ同じです。

「私は、死ななければならぬのでしたら死にます。」(エステル4:16 参照)

「神は、私を救い出すことがお出来になるが、もしそうされなくても、それはそれでいい。」

そして王は、「OK、放り込め」という感じです。その火の燃える炉はとても熱く、温度がどのくらいだったかはわかりません。彼らを投げ込んだ人が生きてそのまま焼かれるほどの熱さだったので、ある程度推測はできます。興味深いです。そして、彼らは中に入りました。心に留めておいてほしいのは、彼らは縛られているということ、手も足も縛られているということです。彼らはこの炎の炉に投げ込まれました。21節では、そのことを取り上げています。

ダニエル3

21 三人は、上着や下着やかぶり物の衣服を着たまま縛られ、火の燃える炉の中に投げ込まれた。

22 王の命令が急であり、炉が非常に熱かったので、その炎はシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを持ち上げた者たちを焼き殺した。

そして23節。

23 この三人、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、縛られたままで、火の燃える炉の中に落ちて行った。

ここで止まってください。一緒にこれを想像してみてください。このようにして落ちていったのです。このようなことが起こったのです。彼らは縛られ、火の燃える炉の中に投げ込まれ、下に落とされます。

そして 24 節。

24 そのとき、ネブカドネツアル王は驚いて急に立ち上がり、顧問たちに尋ねた。「われわれは三人の者を縛って火の中に投げ込んだのではなかったか。」彼らは王に答えた。「王様、そのとおりでございます。」

25 すると王は言った。「だが、私には、火の中を縄を解かれて歩いている四人の者が見える。…

もし私と主であったなら、私は踊っていますよ。

…しかも彼らは何の害も受けていない。第四の者の姿は神々の子のようだ。

それは、神の子だからです！キリスト・イエスが火の燃える炉の中におられるのです。でも、詳細は？ちょっと待ってください。彼らは投げ込まれた。縛られていた。でも、もう縛られていません。縛っていた縄はどうなったのか？ ああ…！燃えてしまったに違いない。今は、縄が解かれ、炎の中を歩くことができるのです。続きを読みたくなるような面白さがあります。ぜひ、そうしてください。この章は、神が素晴らしいユーモアのセンスを持っておられることを私に確信させてくれる多くの章の一つです。ところで、ユーモアは神が発明されました。ご存知だと思いますが…ですね？しかし、まるでネブカドネツアルがこう言っているようです。「お前たち、出て来なさい。」私は心の中でこう考えます、「まじ？あなたが今、私を炉に放り込んだんだ。今度は出てきてほしいのか。あの、私はいいよ。あんたがこっちへ来たらどうだい？」本文中に無いのが残念です。私は、そのように考える人を表す医学用語を知っていますが……それは私には一種のユーモアです。あなたにはそうではありませんか？ところで、火の燃える炉が、私を縛った縄を焼き払ったのなら、私が何を言おうとしているのか、おわかりでしょうか。だからこそ神は、私たちの人生に火のような試練を与えられるのです。それは、私たちが縛られているものを焼き切るためにです。神は、どんなことでもなされます。私が束縛されているものを焼き切るために、この炎のような試練に投げ込まれることが必要ならば、それはそれでいいのです。地球を揺るがすような出来事がなければ、私の関心を引くことができないなら、それはそれでいいのです。これが私が、「神の揺さぶりと焼き尽くし」と呼ぶもので、全体的に揺さぶりと、焼き尽くされます。なぜなら、それが必要だからです。間違いなく、神はそれを為さるほど、あなたを愛しておられるのです。「あなたは縛られて、あなたは絡められている。あなたは束縛され、あなたはその奴隷になっている。わたしは、それをあなたに警告しようとした。それは捨て去らなければならない。だから、こうするのだ。炎の試練をあたえよう。」

「ああ…でも神様、苦しいです、辛いです。」「しかし、もしあなたが、わたしがあなたの人生に許しているこの試練を通して、わたしが何をしているのかを知っていさえすれば。あなたを縛っているもの、あなたを拘束しているもの、あなたを縛り付けているものを焼き払っているのだ。それを取り去る必要がある。そしてこれが、あなたの人生からそれを取り除く方法です。私はあなたの人生のために、それを焼き尽くします。」

私たちの信仰は、火で精錬された金のようなものではないのですか？（I ペテロ 1:7 参照）

金細工師が金を取り出して、ものすごい熱を加えるのを知っていますか？ そうすることで、熱で溶けた金の不純物はすべて表面に出てくるのです。そして、金細工師はその不純物を取り去っていくのです。そして、その金に自分の姿が映るのを見て、純金であると判断するのです。ところで、これはローマ人への手紙 8 章 29 節です。8 章 28 節とは言っていません。8 章 29 節です。私たちは皆、8 章 28 節を知っています。8 章 28 節が大好きです。しかし、28 節に加えて、29 節が必要です。

ローマ 8

28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが

ともに働いて益となることを、私たちは知っています。

しかし、29 節では、その目的が何であるかが書かれています。その目的とは？ 私たちをイエスに似せるために、私たちを形作り、イエス・キリストの姿に合わせるためです。「どうやってそれをするのですか？」よくぞ聞いてくれました。陶芸家が粘土にするように、火のついた炉に放り込みます。昔からちょっと気になっていたんですが学校で陶芸をやったときのことですが、窯、かま (kiln) って言いますよね？ 窯 (kiln) ですよ？ そうですよ？ そんな目で私を見ないでください。私はすでに自分を疑っていますが、窯というものがありますよね。K-I-L-N って綴りの？ 完璧！まさにその通りですね。「耐えられない/you are killing me」陶芸家は粘土を取り、それも、ろくろに乗せられて超スピードで回転した後です。「神よ、何するのですか？！」「まあ、わからないだろうけど、終わるまで待ちなさい。」「いや、これはひどいです。」「吐きそうだ。」「吐くのはいいが、まだろくろに乗ったままだ。」そして、ろくろが止まり、こんな感じです。「ハア、ハア、ハア...」「神よ、神よ、なんと酷い。」「まだ終わっていないよ。」

私たちは主の作品なので、主が粘土をこねるのです。ギリシャ語新約聖書の原語では、ギリシャ語の「ポイマ」という言葉があり、これが英語の「ポエム」の語源になっていることはご存知でしょう。私たちは神の芸術作品です。そして、まだまだこれからです。神の計画では、まだやるべきことがたくさんあります。これはちょっとした仕事になりそうですが、私は神の作品であり、神の芸術作品です。神は私をろくろから降ろし、4 秒ほど息を整えた後、窯に押し込むのです。それも過程の一部です。精錬されていく過程です。ダイヤモンドのことを知っていますか？ 結婚式を担当させていただくとき、指輪については、必ずこのことをお伝えしています。ダイヤモンドは、最初は黒い石炭だったんです。その黒い石炭が、長い時間、強い“圧力”と“熱”を受けて、美しいダイヤモンドに変わります。それが私たちです。私たちが親しみを込めて「高価な真珠」と呼んでいる例え話を知っていますか？ 皆さんがその教えをどのように聞いたかは知りませんが、その真珠が誰だか知っていますか？ それは私たちのことです。そして、その真珠を手に入れるために、すべてを売ってその畑を購入するのです。(マタイ 13:46 参照)

真珠がどうやってできるか知ってますか？ ああ、よかったよかった。毎日何か新しいことを学ぶといえます。私の場合、少なくとも毎週何か新しいことを学んでいましたが、今回は真珠について学びました。貝の中ですよ？ またしても自問自答です。これは窯ではなく、貝のことです。今は貝のことです。それは…痛みで…あ、カキです。すみません、本当にありがとうございます。ああ、長い一週間だったのです。カキです。みなさん、大丈夫ですか？ まだ石打にして殺さないでください。カキです。ええ、良かった。その痛みで…痛みが真珠を生み出すのです。そうでなかったら良いのにとおもいます。葛藤と、痛み、そのようにして真珠は生み出されるのです。ダイヤモンドは熱と圧力をかけることで、真珠は、このようにして生まれるのです。その芸術作品はこうやって作られているんです。それが必要なら…、間違いなく必要なのです。窯の中に入ります… 今日、ここにおられる方にも、「牧師さん、私は窯の中に、今、窯の中にいます」という方がいらっしゃるかもしれませんね。主を讃えます。主を讃えましょう。楽しみです、なぜなら、何が起るかわかりますか？ 実は、先週、このことについて考えていました。民数記 6 章に時間を費やしていました。アロンの祝福と呼ばれるものです。

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け... (民数記 6:24-26)

ところで、これは微笑んでおられるという意味です。ところで、お願いですから、始めに「may (かもしれない)」という語を入れしないでください。それは書いてありません。「主があなたを祝福されるであら

う」ではありません。「どうでしょう...、審査が通るかどうか...」主があなたを祝福し、あなたを守り、あなたの上に御顔を輝かせてくださるよう祈るよ... いいえ、「may(かもしれない)」ではありません。これは神がモーセに命じ、民が幕屋、その後の神殿に行くたびに、アロンに語らせたものです。つまり、「わたしが祝福の神、主であるということを、彼らが知り、これをいつも聞くようにしてもらいたい。」また、幕屋や神殿に1日に何度も行っていた人は、1日に何度もこれを聞いていたことになります。(民数記)6章です。22節くらいから始まって、24節までであると思います。ところで、「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように」の後、さらに良いことがあるのです。主はこう仰られます、「わたしの名を彼らの上に置く」と。(民数記6:27参照)

今、私たちの文化、アメリカ、ここ西洋では、それを完全に見逃しています。中東、アラブ人である私の文化では、こんにちまで、父親の名前で呼ばれることは最高の名誉です。実際、中東の牧師としては、牧師や医者などの肩書きで呼ばれるよりも、長男の名前で呼ばれる方が名誉なことです。長男の名前がエリヤスなので、私は「エリヤスの父/アブ・エリヤス」と呼ばれます。福音書でも、その逆はどうでしょうか？ イエスはヨセフの息子であり、彼らは父親の名前で息子を呼ぶのです。芸術家については、私たちは何を知っているのでしょうか。彼らは自分の作品が完成すると、自分の名前をそこに入れます。彼らの名前が入っています。「これは私の働きです。これは私の作品です。」と。もうしばらく前のことですが、神が「わたしはエルサレムを選んでわたしのおく」と仰られたことについて読んだとき、文字通り、所有者である神の御名、ご自分の御名をエルサレムに付けられたと私が言ったらどうですか？

「わたしの作品であるあなたに、わたしの名を入れよう。」なので、あなたが窯の中にいるなら、ああ、何が出てくるのか楽しみです。なぜなら、あなたがそこから出てきて、忠実に始められた神がその働きを完成させるとき、神はあなたの上にご自分の御名をおかれるからです。あなたは主の芸術作品なのです。戦わないでください。最後にこの話に移る前に一言だけ言わせてください。戦わないでください。私から学んでください。繰り返しますが、私にはそれを証明する傷跡があります。主と戦うとどうなると思いますか？ あなたは不必要に火の炉を長引かせ、不必要に揺さぶりと焼尽くしを長引かせることになります。ただ、神のなさることに委ねましょう。主はあなたを解放しておられます。主は束縛を解いて下さっているのです。あなたを縛っている縄を燃やして下さっているのです。さて、これが3つ目に繋がり、再び、28節と29節の順にご紹介します。それはいつも、最終的には主の栄光と私の益のためです。なぜなら、主は最終的に私を主のもとに連れ戻し、私を礼拝に連れ戻したいと思っておられるからです。それはいつも、最終的には主の栄光と私の益のためです。なぜなら、主は最終的に私を主のもとに連れ戻し、私を礼拝に連れ戻したいと思っておられるからです。今、この世界で起こっていることすべてに対して、神は何をされておられると思うかと問われれば、これしかないでしょう。今、この世界で起こっていることすべてに対して、神は何をされておられると思うかと問われれば、これしかないでしょう。すべてが逆さまになっています。悪は善で、善は悪です。ところで、"evil/悪"は "live/生きる"を 逆にしたものだと知っていましたか？ E・V・I・L、 L・I・V・E "Devil/悪魔" D・E・V・I・Lです。これはやりすぎですか？ わかりません、そうだったらすみません。しかし、"live"を逆にして、Diablos (ギリシャ語：悪魔)。逆なんです。すべてが逆さま。すべてが逆さまです。なぜ逆さまになっているかわかりますか？ なぜなら、神はすべてを揺り動かされるからです。神は人々が信頼していたものや期待していたもの、生活のすべてを揺り動かされているのです。それはまるで、神が愛をもって見下ろされ、こう言われてい

るようです。「あなたはそこに信頼を置いているように見える。」ここで、揺さぶりと焼き尽くしがやって来ます。「わたしはあなたを揺さぶらなければならない、わたしはそれを揺さぶらなければならない。なぜなら、あなたはそれに頼っているからです。あなたはそれに信頼を置いているからです。」「列王記」を学んだ時、主の目に適っていたのは、9人の王だけでした。他のすべての王は、主の目に悪であることを行いました。そして、善良な王たちは、主の目に正しいとされることを行ったと言われています。中には、主ではなく、他国との同盟に信頼を置いていた者もいました。そしてそこから、実際に、第2歴代誌16章9節に非常によく知られた一節があります。預言者が王のところに来て、こう言うのです。「主の御目はこの地上をくまなく見渡し、主に完全に献身する心、主に完全に頼る心を探され、彼らに力を与えられることを知らないのですか？ あなたがしたことは、人を信頼することです。あなたは同盟を結びました。ところで、それが功を奏し、成功し、勝利したのです。私たちの戦略が、私たち自身の知恵と力による戦略であり、それが成功したときは危険です。私たちは実際にうまくやりました。」

そして神は、こう仰られます...「神は嫉妬深い神」といわれるとき、神は私たちに嫉妬しているのではなく、私たちのために嫉妬しておられるのです。なぜなら、私たちへの愛があるからです。そして、神がこう仰られているようです。「わたしが主であり、あなたの神である。あなたがそれに信頼を置き、時計をスタートさせれば、失望して打ちのめされるのは時間の問題です。なぜなら、それは全く神ではないからです。今回は勝ったかもしれないが、もしあなたがわたしではなく、あれやこれに頼っているのであれば...」さて、それは今、起こっていることです。そして、ヘブル人の手紙の著者は非常に慎重に、そして聖霊は、このように書かせられたのです。この揺さぶりは、取り除くことのできるものを取り除き、残るべきもの、すなわち、「御国」を残すためであると。ですから、ここに揺さぶりがあり、危機があります。そして、それは何をしているのか？ まず第一に、多くの人が、神に注目するようになりました。そして、今、起こっているすべてのことを通して、主は彼らの注意を引きました。経済的、職業的、人間関係的に信頼していたものが、すべて揺さぶられ、緩んでしまったのです。神は「わたしはこれを揺さぶり、あなたが信頼を置いているものは、失うことになる。だから、あなたの信頼を置くために残っている唯一のものは、わたしです。」と仰っています。それが必要であるなら、そうすれば良いです。私がこれを言うのに、飽き飽きされないことを願います。これで締めくくりますが、私は確信していますし、心からそう信じています。今の世界で起こっていることのために、どれだけの人々がイエス・キリストの救いの知識を得たのか、まったく見当が付きません。さらに言えば、主の近くを歩んでいないクリスチャンが、これによって揺り動かされ、主のもとに戻ってきたということもあるでしょう。私たちは人々から常に証を受け取っています。実際、アップデートでも、あるいは説教であっても、私が準備するのは、何を含めるかではなく、何に時間を割くか？なのです。できないことが多いんですよ。日曜の朝、早起きして、どんどん追加していくんです。まるで神が「このままだと、かわいそうに、みんな家に帰れないよ、どんどん長くなっていくんだから」と仰っているようです。そして今は、どれだけ時間があるかということです。つまり、時間が許す限り、証に次ぐ証なのです。先週、頂いた証を、"しかし、神は"の証の中で紹介するかもしれません。励まされます！ とても感動的でパワフルです。このオンラインメンバーは「この件が始まったとき、あなたのことを知りました。誰かがリンクを送ってくれました。あなたを見ました。嫌いになりました。二度と見ませんでした。その後、あなたの話を聞くのをやめました。しかし、その後、アンタが言ったことがすべて起こり始めたので、私はコイツの話をもた聞き始めた方がいいと思いました。」まあ、ありがとうございます、という感じです。ありがたいことに、天国では新しい体を手に入れ

るので、こんな姿ではないのです。そして、私たちは肉にしたがって人を知ろうとはしないと、ヨハネは言っています。そのことで主を褒め称えます。待ちきれません。しかし、彼は言いました。「私は今ほど主のために燃えている時はありません。私が主のもとに戻るには、これが必要だったのです。」私は「主を讃えます、主を讃えよう！」という感じです。つまり、それが必要なら必要なのです。振り返ってみると...、最後にひとつと言いましたっけ？　これが最後です。お立ちください、そうすべきですね。賛美チームに出て来てもらいます。どうですか？　最後にひとつ。自分の人生を振り返ってみると、私は長年、主とともに歩んできました。実は、1月で私は40歳になるんです。40歳にしては、かなりいい感じでしょう？　主とともに歩む40歳　主との歩みを振り返ってみると、まず、私が神に注意を向けておらず、神が私の注意を引いてくださったあの苦しい時のことが思い出されます。そして、主が私の注意を引かれた時...ああ、主は私の注意を引かれました。そして試練の中、またもや私は主と戦い、悪化させてしまったのです。そして、私が祈ることさえ、こんな感じで...あなたは祈ったときに、こんなことは起こったことがないでしょう。祈れば祈るほど悪くなるような気がするのです。もう祈るのはやめようって感じです。祈れば祈るほど悪くなっていく感じです。もう祈るのはやめよう。神は「本当ですか？　あなたは祈り続けなければなりません」と仰られます。神に祈られるのではなく、祈らないわけにはいかないのです。ちなみに、そうやって祈ることを覚えていくのは事実です。神が私の注意を引かなければならなかった時を振り返り、一旦神が私の注意を引かれると、栄光の業を成し遂げてくださいました。振り返ってみると、もしそうでなかったら、私の人生に何が起こっていただろう？と考えられません。正直なところ、主がそうしてくださらなかったら、私は今こうして皆さんの前に立っていたらどうか、と思うくらいです。神は私たちの注意を引かれます。神は私たちの献身を望んでおられます。神は私たちの礼拝を望んでおられます。祈りましょう。天の父よ。あなたに心から感謝します。あなたが優しく、寛容であられ、忍耐強く、情け深く、とても親切であることに感謝します。あなたが優しく、寛容であられ、忍耐強く、情け深く、とても親切であることに感謝します。あなたが私たちを導き、私たちのうちにその業をなしてくださいますように。主よ、私は...、つまり、あなたに注意を向けていなかった人々のために祈ります。今は、あなたが注意を引かれているかもしれません。あなたにしかお出来にならない方法で、そうして下さるように祈ります。今、あなたは彼らの注意を引いておられます、主よ。ある人にとっては、誓いや約束や決意などではなく、あらためて身を捧げ、献身することかもしれません。いや、それは基準点であって、「分かりました、主よ。あなたは私の注意を引かれました」と。主よ、お語り下さい、お語り下さい。あなたのしもべは聞いています。イエスの御名において。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7